

小地域懇談会を振り返って

今年度もたくさんの方々に参加をいただき、10月初旬から12月初旬まで「ワガママがひらく未来」権利主張と社会のありかた」をテーマに、小地域懇談会を行いました。区長さんや自治会長さんには、大変ご尽力をいただきました。ありがとうございました。

今回は、参加者の方からいただいたアンケートの途中集計について、概要を報告します。

〈参加者について〉

男女比を見ると「男性63%、女性33%、未記入4%」という結果でした。男女共同参画の取り組みが進むなかで、女性の方の参加が望まれます。

年代別では「60代33%」「70代28%」「50代18%」で、50代～70代で参加者のおよそ8割を占めています。高齢化が進む中ですが、若い人の参加があれば、話し合いもさらに深まるのではないのでしょうか。

〈参加回数について〉

「初めて」が11%、「2回～5回」が33%、「6回～9回」が13%、「10回以上」が41%という結果でした。集落によつては、参加者の固定化が見られるようですが、全体的にみると、毎年1割程度の新しい方の参加があります。

〈話し合いの内容について〉

「とてもよかった17%」「よかった69%」「あまりよくなかった7%」「よくなかった3%」という結果でした。参加者のみなさんの86%の方から肯定的な評価をいただきました。

〈話し合いへの参加について〉

「積極的に参加できた」21%、「参加できた」69%、「あまり参加できなかった」8%、「参加できなかった」1%という結果でした。9割の方に肯定的な評価をいただいています。参加型の学習について理解していただいている結果だと思います。

〈感想から〉

今年も参加者のみなさんから、たくさん感想をいただきました。その中で小地域懇談会に取り組み上で、とても参考になる感想がありましたので紹介します。

「ワガママ」と聞いて「同対事業（注①）」を思い浮かべました。ムラ（注②）の方たちが正当な「権利」として地域の改善を「主張」したにもかかわらず、ほんの数十年前までは、今回のような小地域懇談会で、他地区の方から「ワガママ」扱いされていたと記憶しています。結局、主張する人ではなく、それを引き受ける側の問題と改めて思いました。

来年度も充実した小地域懇談会にしていきたいと思えます。

なお、アンケートの詳しい内容、分析は、大山町人権・同和教育推進協議会の広報誌「ぬくもり」27号でお知らせする予定です。

（注①）「同対事業」…同和对策事業特別措置法（昭和44）に基づき実施された地区改善事業。
（注②）ムラ…同和地区

講演会のご案内

「部落問題学習の今
～模擬授業を通して
学ぼう～」

◆日時 2月8日（土）

13時30分～15時

◆場所 人権交流センター

◆講師 松井貴宏さん

（鳥取県教育委員会事務局人権教育課指導主事）

◆内容

模擬授業「小学校における部落問題学習」

講演「部落問題学習と教科書の記述」

◆問い合わせ先

大山町人権・同和教育推進協議会
（人権交流センター内）

TEL 0859・54・2286
FAX 0859・54・2413

〔主催〕大山町名和地区人権・同和教育推進協議会